

## 年報第2号刊行にあたって

心理科学研究センター事務局長  
人間科学部心理学科准教授

大久保 街亜

心理科学研究センターにおける研究プロジェクト「融合的心理科学の創成:心の連続性を探る」が、平成23年度より5年間、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択されました。今年はその2年目にあたります。プロジェクトの体制も、少しずつ整ってまいりました。現在の人員構成はセンター員14名、センター客員研究員1名、PD 1名、RA 3名の総勢19名となります。センター員はそれぞれの専門性に立脚しつつ、さらに、隣接領域や関連領域へ研究の焦点を広げ研究を行っています。その過程で、有機的な融合がおこり新しい心理科学の芽が生まれています。

この年報では、我々の成果を報告するため、また、国内外の研究者と有機的な関係を構築するために行ったシンポジウムの内容をご紹介します。今号で紹介するシンポジウムは3つとなります。それぞれテーマは「心理学における効果の大きさとばらつき（平成24年2月25日（土）開催）」、「不安、うつ、妄想に挑む心理学：臨床と基礎の融合を目指して（平成24年6月16日（土）開催）」、「Expansion of associative learning theory（平成24年11月10日（土）開催）」でした。

実証科学の基礎となる測定法、分野間の有機的な融合、そして、最先端の理論。幅広く、かつ、重要なテーマについて取り上げたつもりでおります。熱気あふれる当日の様子が、これらの記録を通して、少しでも伝わればと考えております。

シンポジウムを開催するだけでなく、センター員はさまざまな研究活動を行っています。国際的な論文誌への掲載や専門書の発行、国内外での学会発表など、センター員は活発に研究成果を心理科学研究センターから発信いたしました。その一部となるかもしれませんが、1年間の心理科学研究センターの活動をこの年報において報告いたします。